

ASOU KAGURA
LIVE ON STAGE
2007

麻生神楽

プログラム

ふるさと文化財団 基金活用事業

ASOU KAGURA LIVE ON STAGE
ライブステージ 2007

やばひい河童大鼓

豊後みさき大鼓

庄内子供神楽愛好会

高家神楽社

日ノ宮神楽会

大付神楽部

主催／郷土芸能能保学生会 麻生神楽 麻生神楽管成会

後援／宇佐市 宇佐市教育委員会 宇佐 高田広域協議会 宇佐市観光協会 院内町観光協会
安心院町観光協会 かんぱの郷 宇佐 麻生地区信用組合 麻生地区活性化センター 運営委員会 NOAS FM

御挨拶

本日は『麻生神楽ライブ on ステージ 2007』において頂きまして誠にありがとうございます

又このライブの開催にあたりご理解ご指導ご協力を頂きました方々に心よりお礼と感謝申し上げます

さて私ども麻生神楽（郷土芸能保存会）は明治23年頃発足され

今日まで継続され活動が続けています 昭和54年頃後継者不足に

より衰退しましたが現在の会員の手により引き継がれています

現在は会員29名により各神社の祭り等に奉納神楽として参加をしています

又今日までには中国韓国のイベントにも参加して参りました

平成11年度には宇佐市無形文化財に指定されています

先人達が残した古き伝統文化麻生神楽が我々の手から子孫に引き継がれて

いく事を願うものであります

尚今回のライブは第4回目を迎えています まさに会員の手により

作られたライブでありますので何卒ご理解を頂き最後までお楽しみ

頂ければ幸に思います

おわりに郷土芸能保存会麻生神楽に皆様方の暖かいご理解とご指導を

お願い申しあげまして挨拶と致します

郷土芸能保存会

会長 永野正行

麻生神楽

郷土芸能保存会

大分県の北部、いろは川の上流部に位置する麻生地区という人口200人ほどの小さな村を拠点に活動する神楽保存会です。

明治25年前後に現在の中津市三光佐知より初代社長、永野利市に豊前岩戸神楽が伝授されたと伝えられています。当時は「井のこ神楽」の愛称で親しまれていましたが、大正時代から昭和にかけて活躍するも、太平洋戦争によって座員が激減。しかし、地元青年団によって昭和56年に神楽保存会を設立し、この時に地区名から「麻生神楽」と改名して現在に至っています。

全国八幡社の総本宮宇佐神宮に仕える神楽保存会として、年間70日前後の活動を行っています。



やばけい 河童太鼓

中津市耶馬溪町

おこる平家は久しからず。

今から八〇〇年余りをさかの
ぼる昔、天下を二分する源平の戦
はついに源氏の制するところと
なり、栄耀華を極めた平家一門も、
ついに西海の壇ノ浦で敗れた。一
門は落人となって九州各地に逃
れたが、さらに迫る鎌倉の追っ手
にあえない最後を遂げ、その靈魂
はみな河童になり、子供や牛馬を
川に引きずり込み、田畑を荒らし、大いに恐れられた。

耶馬溪の雲八幡宮では、今も河童鎮めの祭を奏し、河童
の神通力によって天下泰平、五穀豊穡、無病息災、処繁盛
を祈る「河童まつり」が行われている。やばけい河童太鼓
はこの平家落人と河童の由来を太鼓に創作したものです。
曲は、平和な村まつり風景から始まり、そこに傷つい
た鎧武者の落人が登場します。やがて鎧武者は息絶え、
その靈魂が河童となって荒れ狂うクライマックスにな
ります。

一つの太鼓を中心に無言劇のように物語が展開する
ユニークな太鼓で、楽器は他に横笛、鉦、竹のパーカッ
ション等を使い場面の表現に効果を上げます。

「やばけい河童太鼓の会」は平成三年に結成されました。

(注)雲八幡宮の「河童まつり」は、中津市の無形民俗文化財
に指定されており、毎年七月二十九日午後四時から
奉納されます。



YABAKEI
KAPPATAIKO

【連絡先】中津市耶馬溪町大字宮園363
雲八幡宮社務所・気付(会長・秋永勝彦) 〒871-0433
電話・FAX0979-56-2309
<http://kumohachiman.j-air.net/>



庄内子供神楽 愛好会 大分県由布市

青少年の健全育成と非行防止、庄内神楽
の後継者育成を目的に、昭和51年3月に結
成されました。座員は、由布市庄内町に在
住する小中学生27名で構成されており、日々
練習に励んでおります。主な活動内容とし
ては、各地域のお祭りやイベントのアトラ
クション、福祉施設の慰問などがあり、県
内外を問わず、年間約50回の出張公演を行
っております。

SHOUNAI KODOMO KAGURA AIKOUKAI



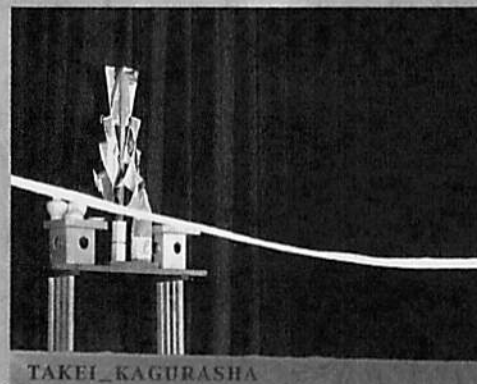
高家 神楽社

大分県宇佐市

高家神楽社の由来

明治三十年頃には宗像神社と言
われていた。
当時の宮司、宗像氏孝氏が氏子の
青年に呼びかけ十八名の方に宗像
神社、伝承の豊前岩戸神楽三十三
番を伝授した。
十八名の方々は、宗像神社音楽
神楽組合を申し合わせ規約第一条
―第十三条に、まとめ誓約書とし
て連名で宗像氏孝氏に預け置く。
その後宗像神社が郷社と成り高家神社となると同時に
神楽社を豊前岩戸高家神楽社となり現在に至る。

高家神楽社 社長 棟元政行



TAKEI_KAGURASHA

豊後みさき太鼓

豊後高田市香々地町

豊後みさき太鼓は、平成元年「ふるさと創生事業」の一環として、新しい芸能文化の想像・地域の活性化を目指し結成されました。

地域はもとより、県内外での祭り・イベント等積極的に参加しています。又、海外公演の経験もあります。本日の演奏曲は「周防灘」と言う曲を演奏します。「周防灘」は、香々地の前に広がる海をイメージして作った曲です。



大村神楽講
OMURA KAGURAKOU

福岡県豊前市

大富神社の社家、清原家によって伝授されたのが大村神楽です。神楽はもともと神官によって古くから伝承されてきたもので、豊前の神楽も中世の頃には宮神楽として成立していたと考えられています。社家神楽の時代には吉田神道系要素の神楽も伝えられ、さらに江戸時代後期になると出雲神話に歌舞伎の手法を取り入れた、芸能的要素の強い演目が増えられます。

大富神社では毎年正月元旦の日付が変わるとともに「湯立神楽」が奉納されます。燃え盛る炎の中で演じられる幻想的な舞は、まさに新しい年の初めを祝うにふさわしいもので、豊前の夜神楽を代表する演目といえるでしょう。福岡県指定無形民俗文化財。



日ノ岳神楽会

大分県宇佐市



この日ノ岳神楽は江戸時代初期から、五穀成就、悪疫退散、無病長寿の祈願を祈る神楽として伝えられてきました。

明治時代、戦争により、座中から多くの犠牲者が出て衰退傾向をたどっていましたが、神楽座の没落を惜しみ、中津市植野の秋光宮司の協力を得て再興し、そのときに、神楽座から神楽社と名を改め、初代社長として襲名されたのが現社長の曾祖父に当たる河野平九郎氏です。

昭和39年大分県無形文化財に指定されその後、昭和41年に大分県指定無形民俗文化財となり大阪万国博覧会や沖縄海洋博覧会等に大分県代表として出場しています。

現在社員は8歳から77歳の14名と最小限ですが4月の地元の春祭は勿論のこと、近郊の安心院、宇佐市にも広く奉納しています。時代に呼応した派手なシヨ一の神楽とは趣きを異にし昔ながらの伝統的舞を敢えて継承しています。



HINOTAKE KAGURAKAI